第三者評価結果の公表事項(児童養護施設)

①第三者評価機関名

社会福祉法人富山県社会福祉協議会

②評価調査者研修修了番号

21B010 (SK15084)、17C038

③施設の情報

名称：高岡愛育園	種別：児童養護施設	
代表者氏名：施設長 高田 博之	定員（利用人数）： 45（30）名	
所在地：富山県高岡市佐加野 1701		
TEL：0766-22-3122	ホームページ：	
【施設の概要】		
開設年月日 1953年（昭和28年）5月		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人富山県呉西愛育会		
職員数	常勤職員： 22名	非常勤職員 7名
専門職員	社会福祉士 4名	保育士 16名
	医師 1名	調理師 3名
	栄養士 2名	臨床心理士 1名
施設・設備の概要	居室数 本館 8室 小規模グループケア棟 ひまわり 4室 かがやき 6室 コスモス 6室	設備等 （本館） 娯楽室、食堂、図書室、学習室、 体育館、洗面所、浴室、便所 （小規模グループケア棟） 遊戯室、調理室、食堂・居間、 洗面所、ユニットバス、便所

④理念・基本方針

<理念>

- ・私たちの子どもたちが、家庭的な居場所で、ゆっくり安心して成長していけるように努めます。
- ・私たちの子どもたちが、人間環境の中で、愛されていることを実感し、人を愛することができるように努めます。
- ・私たちの子どもたちが、着実に自己肯定感を育み、将来、地域の中でしっかりと自立できるように努めます。

<基本方針>

和の精神のもと、穏やかで温かな養護をなすことにより情緒の安定をはかり、多くの経験を積ませ、自立していけるように努める。

- ・ 児童相談所の援助企画に基づき、自立支援計画を策定するとともに、従来からの書類を一本化し児童の動きがわかるようにする。
- ・ 自立訓練として、学校、地域、社会教育団体等の行事や当園行事には、進んで参加させ、多くの経験を積ませる。

⑤施設の特徴的な取組

- ・ 「合同ケース検討会」を年7回開催し子どもの養育方針、自立について話し合う
(参加者：座長、明橋大二医師・児童相談所・小中高校・市教委・愛育園職員)
- ・ 高岡市要保護児童対策地域協議会 代表者会議 実務者会議に参加しPRする。
- ・ 愛育園「希望を引き出す応援面接」を年3回実施し、子どもとの人間関係を深める。
- ・ 児童虐待防止マニュアルに従い、明るく楽しい愛育園づくりを目指す。
- ・ 週1回の小学生学習塾（講師は地域の大人）に取り組ませ、学習意欲を高める。
- ・ 園祭（ボランティア40名参加）に積極参加させ、大人との交流を図る。
- ・ “なかよし運動会の主役は子どもたち”を前面に出した運営をする。
- ・ 人生儀礼「七五三・元服・髪上げ」祝いを厳粛な中、全員参加で斎行する。
- ・ クリスマス会、卒園を祝う会は、子どもたちと職員が一体となって取り組む。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成28年7月26日（契約日）～ 平成29年1月30日（評価結果確定日）
受審回数(前回の受審時期)	1回（平成25年度）

⑦総評

◇特に評価の高い点

・ 今年度からの大舎制から小舎制の切り替えを機に、施設が抱える従来からの課題解決や改善に向け、施設として改めて「職員のあるべき姿勢」と「養護方針」を示し、最重要課題である一番弱い子を守る生活とその生活リズムが定着するよう運営改善や養護・支援の向上に取り組んでいる。

・ 理念の創設、施設要覧の作成、職員心得（最高の愛育園8ヶ条）の見直し、給与体系の改善、職員補充、各小舎棟のリーダー職員に加え全体を総括する主任を配した新職員体制、地元学習ボランティアの支援協力、毎日の小学校への職員学級巡回、子どもと担当職員との個別面談、子どもの希望を引き出す応援面接、施設長と全職員との個別面談、施設独自の自立支援計画書、全職員の幼児版初級指導者養成講座受講など、施設長のリーダーシップのもと、施設としての養育・支援の実効性を高める多数の取り組みがなされている。

・ 小舎制になり、ユニットごとに年齢の異なる子供が1つの家族としてかわり、学習、掃除、洗濯、買い物、食事の手伝いなど社会のルールを習得する主体性を引き出した支援がされている。基本欲求が身近に充足できるように子供の意志を尊重して柔軟な対応で支援するなど信

頼関係が親密に保たれている。

・心理的な課題を持つ子供もいる中、臨床心理士が配属され、専門設備の整った環境で専門的心理カウンセリングを月2、3回受けて、心理的支援が充実されている。

◇改善を求められる点

・施設で配布している書面そのものを渡さずとも、施設の方針や姿勢、養育・支援の状況等を簡潔にまとめた書面を準備され、定期的に保護者向けに送付されることを期待したい。

・人事管理の一環として、子どものみならず職員にも個々の目標を設定され、個別面談等にてその進捗状況の確認や達成評価をされたり、また昇任・昇給・降任・降給基準等も明確にし、賞罰や待遇の不公平感の除去や、優秀な職員の抜擢、適材適所の配置等の根拠とされることを期待したい。

・施設としての公開体制はまだ充分とは言えず、ホームページの開設や事務所に事業計画書、事業報告書、決算書、第三者評価結果票等を常置され、閲覧可能な状態にされることが望まれる。

・財務管理についても外部の専門家や公認会計士等による財務管理や会計指導を受けるなど、二重以上のチェック体制を施され、より公正かつ透明性の高い経営・運営につなげられることを期待したい。

・自立支援計画の目標項目に、施設が願う子どもにそうなって欲しい目標以外にも、子どもの好きなことや得意なこと、あるいは伸ばしてあげたいことなども加えられ、子どもにとってより具体的に身近に感じられる内容にされることを期待したい。

・子供の権利擁護に関する施設での取り組みが希薄で、職員の権利擁護の振り返りや人権尊重の意識の向上に取り組んだり、子供の権利に関することがわかる「権利ノート」が以前はあったが今は廃止になっているので、それにかわる「しおり」などで解りやすく教えられる資料を整備する取り組みが期待される。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

今後、以下の点について改善する。

1. 保護者向けに、施設での生活の様子をお知らせする便りを配布する。(学期ごと)
2. 自立支援計画票を見直し、子どもと話し合い短期目標を決め、評価して生活自立を図る。
3. ホームページを更新する。
4. 地域に施設を開放し、地域住民との交流を図る。(体育館、研修室、面会室)

⑨第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

第三者評価結果（児童養護施設）

※すべての評価細目（共通評価基準 45 項目・内容評価基準 41 項目）について、判断基準（a・b・c の3段階）に基づいた評価結果を表示する。

※評価細目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する。

共通評価基準（45 項目）

評価対象Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
①	I-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	Ⓐ b・c
<コメント> 数年前から、今年度からの小舎制きりかえに向け施設の増設改修事業に着手しているとともに、施設が抱える従来からの問題解決や改善に取り組んでいる。理念は福井県や石川県の施設視察を参考に今年度から創設したもの。職員心得（最高の愛育園8ヶ条）も見直し、新たな職員行動指針と位置付け周知周到を図っている。また職員や子ども・保護者、地域住民や関係機関等にも新姿勢を広く周知できるよう、理念や職員規範、指導・生活目標、施設概要等を盛り込んだ施設要覧（パンフレット）を初めて創り、施設の理解や支援につながるよう活用している。		

I-2 経営状況の把握

		第三者評価結果
I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
②	I-2-(1)-① 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a Ⓑ c
<コメント> 地域の子どもの数や子ども像等の教育・支援のニーズや潜在的に支援を必要とするデータ収集や分析まではしていないが、施設長の校下社会福祉協議会の一員としての社会福祉活動や、精神科医を座長とする児童相談所や小・中・高校、市教育委員会との年7回開催の合同ケース会議等を通じて、地域の状況や動向の把握につなげている。		
③	I-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	Ⓐ b・c
<コメント> 大舎制から小舎制への経営転換に向け、施設増設改修事業は施設長自らが担当者となり行政や関係機関の助言や指導を受けながら、平成26年度に作成した整備事業計画を進めているとともに、施設が抱える運営上の課題や問題点は毎月の職員会議で検討し、年2回開催の理事		

会にても明らかにし、施設運営向上に取り組んでいる。

I-3 事業計画の策定

		第三者評価結果
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
4	I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>中・長期に向けた構想を具体的に表記した計画書作成までには至っていないが、施設増設改修事業は平成26年～32年のスパンで整備事業計画をたて順次遂行しており、運営に関しても「家庭的養護のあるべき姿の実現」を目標とし、大舎制から小舎制に切り替えによる効果と弊害を見極めながら、組織体制や職員給与体系の是正、人材雇用・育成等に取り組んでおり、運営全般については職員会議等を通じて、職員と協議しながら課題解決や改善及び見直しに着手し取り組んでいる。</p>		
5	I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>今年度も、中・長期構想に準じて今年度実行すべく計画（課題等）を策定している。特に今年度は小舎制への転換年度であることを踏まえ、小舎制にすることで従来からの最重要課題でもある「一番弱い子を守るための生活三大原則」と「その生活リズムの定着」を目標に「単年度事業計画」と「養護方針」を策定し、計画遂行に臨んでいる。</p>		
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
6	I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>単年度計画の策定は、施設長が昨年度末に毎月重ねてきた職員会議での検討結果や、これまで培ってきた子ども達への養育・支援の成果及び現状を踏まえながら評価をすることで問題点や課題を抽出し、さらなる向上を目指して次年度計画を策定している。「単年度計画の作成」そのものを議題にした職員会議は開催されていないが、施設長が年度当初に当該年度の経営方針を全職員に書面配布とともに説明と理解を求め、計画実行に向け臨んでいる。</p>		
7	I-3-(2)-② 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>入所に至るまでの工程は児童相談所が担当していることもあり、入所時に子どもと共に施設を訪れる保護者はほとんどいなく、入所後も同様なのが現状である。そのため、事業計画や運営方針等の説明は、子どもには日々の養育・支援の場で年齢や症状に応じて説明する機会を設けているが、保護者に説明する機会はほとんどない。事業計画書や運営方針等の書面そのものを配布せずとも、施設の姿勢や意図、養育・支援状況等を簡潔にまとめた書面を準備され、定期的に保護者向けに送付されることを期待したい。</p>		

I-4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
8	I-4-(1)-① 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a) b・c
<p><コメント></p> <p>養育・支援の質の向上に向けた取り組みとして、「指導目標」と「生活目標」を掲げ、基本1年毎の自立支援計画の策定は、6月までに担当職員の下案をもとに職員会議にて協議で策定しているが、年度途中の12月～1月にも再度職員会議で見直す期間を作り、5月、10月、2月には小学生以上を対象にした「子どもの希望を引き出す応援面接週間」にて子どもと担当職員との人間関係を深める機会を設けている。月末の職員会議では個別の課題や運営全般の協議と共通理解につなげているなど、全職員で組織的な取り組む体制が構築されている。</p>		
9	I-4-(1)-② 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a) b) c
<p><コメント></p> <p>自己評価や第三者評価結果にもとづいて、取り組むべき課題を具体的に表記した改善計画の作成までには至っていないが、今年度の事業計画には小舎制の転換を機に従来から潜在的にある問題の対処として虐待防止委員会の設立や、職員間のチームワーク強化等を目的に施設長と全職員との個別面談の実施、子どもの希望を引き出す応援面接の実施を盛り込んでいくなど、具体的な方策を示し遂行しているが、小舎制が始まったことで新たに噴出した課題も多々あり、即時に対処する場合もあれば、じっくりと状況を見極めることも必要な場合もあるため、臨機応変に随時対応しているのが現状である。</p>		

評価対象Ⅱ 施設の運営管理

Ⅱ-1 施設長の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 施設長の責任が明確にされている。		
10	Ⅱ-1-(1)-① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a) b・c
<p><コメント></p> <p>施設長の職務は事務分担表で文書化されているとともに、施設長は年度当初の会議や毎月の職員会議、自立支援計画作成時や子どもへの応援面接開始時などの各節目に応じて、自らが作成した書面を持って、業務意図の説明や職員の職務・役割及び自らの姿勢を職員に表明し臨んでいる。</p>		
11	Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a) b) c
<p><コメント></p> <p>施設長は就任以来、関係法令全般までには至っていないが、児童福祉法、指導憲章、法人就</p>		

業規則等については、職員会議の席上やそういった話をする機会がある毎に遵守を求めている。また自身も、毎年開催の社会的養護施設長会議をはじめ関係研修会等に参加し、その周知周到の必要性を認識し施設運営に反映するよう努めている。特にプライバシー保護や人権擁護・侵害については、単年度事業計画や養護方針、経営方針等の諸々の項目等に反映させ、また年度途中に職員や子どもに実施するアンケート項目にも反映させているなど、遵守すべき法令の浸透に取り組んでいる。		
Ⅱ-1-(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。		
12	Ⅱ-1-(2)-① 養育・支援の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>施設長は、毎年度当初に当該年度の養育方針を全職員に対して書面とともに説明と理解を求めており、年度途中においても自立支援計画作成時や子どもへの応援面接開始時等に書面を持ってその方針を伝えている。ほか、施設長と全職員との個別相談会や担当職員と子どもとの個別面談の開催、小・中学校との協働、学習ボランティアの復活など、学力向上を目指した養育・支援の向上に向け、リーダーシップを発揮して取り組んでいる。</p>		
13	Ⅱ-1-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>施設長は就任時から、就任前から施設が抱えているいくつかの潜在的な問題に対しその是正に取り組んでおり、小舎制への切り替えもその施策の一環である。理念の創設、職員心得（最高の愛育園8ヶ条）の見直し、県人事委員会に即した給与体系の改善、新規採用による職員補充、小舎棟毎にリーダーを配するとともにどの小舎棟にも属さない総括的な役割の主任を配した新職員体制の敢行、また全職員の幼児版初級指導者養成講座受講など、運営の改善や業務の実効性を高める取り組みを実行している。</p>		

Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果
Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
14	Ⅱ-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a・b・c
<p>職員体制は、昨年度中に退職者による欠員と小舎制にともなう増員を見込んで、新規職員を募集し補充を完了している。現在職員は、基幹的職員、家庭支援専門相談員（兼里親会との連絡調整）、心理療法担当職員がおり、有資格者も社会福祉士、保育士、臨床心理士がおり、児童養護施設としての職務配置や福祉人材については計画通りに充足している。</p>		
15	Ⅱ-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>施設が期待する職員像として理念に基づいた「指導者の姿勢」を明示しており、また必要に応じて人材確保や職務配置がなされ、質の向上を目的に施設内外の研修受講も遂行している。評価・処遇については、年3回施設長と処遇職員との個別相談を実施し、日頃の業務内容と合わせ総合的に施設長と主任が勤務評定を行っているが、職員個々の目標設定及び進捗状況</p>		

<p>の確認や達成評価、昇任・昇給・降任・降給基準等も明確化して、賞罰や待遇の不公平感を除去し、優秀な職員の抜擢や適材適所の配置の根拠とされることも、人事管理のひとつとして加え役立てられることを期待したい。</p>		
<p>Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。</p>		
16	<p>Ⅱ-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。</p>	a・b・c
<p><コメント> 職員の就業環境は小舎棟毎に形成されており、勤務日程やワークライフバランスは各棟のリーダー職員が管理し、主任が全体的なバランスに配慮し健全な労務管理を図る体制となっている。また施設長と全職員との年3回の個別面談は、日頃の職員としての業務姿勢を問う「自己評価票」、子どもの養育・支援に携わるうえでの「人権擁護・侵害防止のための点検チェック票」、「職業性ストレスチェック票」の事前提出をもとに実施し、職員からの意見や意向の聴取とともにサポートをする必要性の有無を把握することで働きやすい職場づくりにつなげている。また新人職員には都度状態を見ながら小舎棟リーダーや主任が個別対応をしているが、出された意見・意向の記録、把握した結果に基づいて対応した記録も残し、今後の対処対応の一助とされることも期待したい。</p>		
<p>Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。</p>		
17	<p>Ⅱ-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。</p>	a・b・c
<p><コメント> 「指導者の姿勢」を施設が期待する職員像として明示し、「運営理念」や「職員心得（最高の愛育園8ヶ条）」を基軸に子ども達への指導目標や生活目標をたてているが、子どもに目標設定があっても、職員が自らに課す目標設定は講じられていない。年3回の施設長との個別面談の機会や、あるいは小舎棟リーダー職員や主任職員との個別面談も新たに設けられ、職員一人ひとりの育成につなげられることを期待したい。</p>		
18	<p>Ⅱ-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。</p>	a・b・c
<p><コメント> 現在、児童養護施設として必要な職務配置や有資格職員は充足しており、毎年、質の向上を目的に県内外の外部研修や内部研修を単年度計画に組み込み実施しているが、研修先や参加する職員の基準はともすれば形骸的、画一的になっている傾向がある。従来からの踏襲ではなく、今の施設の状態に必要な職員の知識・技術・見聞・体験等について改めて検討し、また職員が個別に望む教育や研修も把握され、それぞれ質の向上を目指した整合性がとれた教育・研修計画を編成されることを期待したい。</p>		
19	<p>Ⅱ-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。</p>	a・b・c
<p><コメント> 現在、現任職員には単年度計画に沿って外部内部研修が遂行され、新人職員にも就業規則や養護方針等の3日間の施設長・主任による研修プログラムで実施している。また今年度は別途に企画した幼児版初級指導者養成講習を全職員が受講している。今後は、職員個々に応じての階層別研修や職種別研修、知識や技術の習熟度に応じた個別研修、研修・講習会の枠に</p>		

拘らない視察見聞や体験等の気分転換を兼ねた企画も期待したい。		
II-2-(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
20	II-2-(4)-① 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>実習生の受け入れについては、毎年多数の福祉系大学の要請を積極的に受け入れており、(今年度採用の職員に当施設実習経験者もいる。)実習受け入れ概要や日程、子どもや施設への配慮、準備品・提出物・装備・実習中の心得等の各書面を備えているとともに連絡調整の担当職員も設けているなど、基本的な対応体制を整備し計画的に実施しているが、一律のプログラムの消化体制ではなく、これまで数多くの実習生受け入れ経験を活かす意味でも、大学との連携をより深め、それぞれの大学や学生の求めるより効果的な受け入れ体制となるよう図られることや、大学生以外の実習生も受け入れ、幅を広げられることも期待したい。</p>		

II-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
21	II-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>今年度に、理念や職員規範、指導・生活目標、施設概要等を盛り込んだ施設要覧(パンフレット)を初めて創り、施設の理解や協力支援につながるよう活用しているが、施設としての事業評価結果や財務情報の公開体制の構築までには至っていない。施設要覧の内容に加えプライバシー保護や人権尊重・擁護等の主旨、苦情受付や解決への体制なども掲載したホームページの開設や、事務所内に事業計画書、事業報告書、決算書、第三者評価結果票等を常置され、いつでも閲覧可能な状態にされていることが望まれる。</p>		
22	II-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>施設における事務、経理、取引等の財務管理については、施設長と1名の会計・経理担当職員が担当しており、二重以上のチェック体制とはなっていないと不十分と言える。決算承認も法人理事内でなされており、監査も県行政主務官庁による児童養護施設運営全般にわたるもので、外部の専門家からの会計監査までには及ばない。より公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のためにも、外部の公認会計士や税理士による財務管理や会計指導を受けられることが望まれる。</p>		

II-4 地域との交流、地域貢献

		第三者評価結果
II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
23	II-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a・b・c

<p><コメント></p> <p>地域の商店へは、子どもの年齢や症状に応じて職員が同行して利用しているなど、日常生活の中で社会資源を活用している。また地域に向けて施設体育館を提供したり、ボランティアや慈善団体等の支援行事があったり、園祭では多くの地域住民、関係諸団体、小・中学校職員等に盛り上げて頂き、学校の友人も気軽に訪ねられる環境を整えているなど、地域との交流を広げる取り組みがなされている。施設として、地域との関わり方についての基本的な考え方や姿勢、方針も明文化し、今後もより広げ深められることを期待したい。</p>		
24	<p>Ⅱ-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。</p>	a (b) c
<p><コメント></p> <p>ボランティア受け入れに対する基本的な考え方を養護方針に明示し、地域住民有志による学習ボランティアや教育機関、慈善団体等から毎年多種多様なボランティア支援を頂き、子どもの学習能力や社会生活・勉強等の向上に活かしている。今後も多くのボランティア支援を受けながら子どもの成長に活かすためにも、従来からの慣例や信頼関係に依存することなく、組織としてボランティア登録・申し込み手順・配置規程等も設け、体制を整えられることを期待したい。</p>		
<p>Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。</p>		
25	<p>Ⅱ-4-(2)-① 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。</p>	(a) b・c
<p><コメント></p> <p>子どもへの養育・支援の向上のために、精神科医を座長とする児童相談所や小・中・高校、市教育委員会との年7回開催の合同ケース会議をはじめとして、日頃から児童相談所、病院、学校、学習ボランティア等と様々な連携が行われている。特に小・中学校とは何でも言い合える関係を持っており、毎日午前中に職員が小学児童の学級参観巡回に出向いたり、愛育園祭には校長や教職員に来て頂いて運営支援を頂いるなど、養育・支援に関わる社会資源との協力連携が図られている。またその成果や進捗状況等は随時必要性に応じて職員会議に議題として報告し、問題や課題が生じれば検討し共通理解につなげている。</p>		
<p>Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。</p>		
26	<p>Ⅱ-4-(3)-① 施設が有する機能を地域に還元している。</p>	a (b) c
<p><コメント></p> <p>毎年開催の施設体育館を活用しての園祭では、教育機関や慈善団体の支援を頂きながらたくさんの方々に盛り上げて頂き、また今年度は法人が使用許可を受けている別地域の畑を地域住民の方々に提供し、その収穫物も園祭に提供して頂いている。体育館は、選挙演説会場やビーチバレー練習、児童クラブ卓球大会、保育園の運動会の雨天開催候補地にもなっている。今後は、ハード面の提供のみならず、保育、障害児、生活困窮者の理解を深めるための講習会の開催やそういった相談窓口の開設、災害時における地域との連携も具体的に図られることを期待したい。</p>		
27	<p>Ⅱ-4-(3)-② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。</p>	a・b (c)
<p><コメント></p>		

法人として、通所、訪問入浴、居宅介護支援事業の社会福祉事業の運営はしているものの、法人及び施設として独自に行う公益的な事業・活動はしていない。

評価対象Ⅲ 適切な養育・支援の実施

Ⅲ-1 子ども本位の養育・支援

		第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		
28	Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した養育・支援提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>理念にもとづき職員心得（最高の愛育園8ヶ条）、指導目標、生活目標を掲げ、今年度の経営方針には「指導者の姿勢」を明示し、さらなる養育・支援の向上に臨んでいる。共通理解については、毎日のミーティング、毎月末の職員会議を基軸に、諸々の対応を講じている。</p>		
29	Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援提供が行われている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>プライバシー保護と権利擁護に特化した書面は不整備だが、「一番弱い子を守る」施策は、小舎制への切り替えの大きな目的のひとつでもある。「人の棟や部屋に入らない」を生活の大原則として位置づけ、小舎棟毎にその周知徹底に取り組んでいる。また施設長、主任、各小舎棟リーダーで構成した虐待防止委員会の開催、人権擁護・侵害防止のための施設独自のマニュアル及び職員への点検チェックシートの実施、施設長だけが読む子ども向けの「お話しボックス（意見箱）」の活用、子ども全員に向けてのアンケート実施や「希望を引き出す応援面接」など、多岐にわたって取り組まれているが、根絶までには至っていません、引き続き今後も工夫や改善など地道な努力が求められているところである。</p>		
Ⅲ-1-(2) 養育・支援の提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
30	Ⅲ-1-(2)-① 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>入所に至るまでの工程を児童相談所が担当しているため入所時に子どもと共に施設を訪れる保護者はほとんどいなく、また入所後も同様なのが現状である。児童の進学や就職時、問題が発生した時などには連絡をとり、丁寧な対応や説明に努めているが、定期的なアプローチはほとんどされていないのが現状である。</p>		
31	Ⅲ-1-(2)-② 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>事業計画や運営方針等の説明と同様に、養育・支援の姿勢や取組についても子どもには日々の養育・支援の場で年齢や症状に応じて説明する機会を設けているが、保護者に説明する機会はほとんどない。多岐にわたる養育・支援状況を逐次書面をもって配布せずとも、任意で養育・支援上の節目を設定され、その折に簡潔にまとめた書面も準備し定期的に保護者向け</p>		

に送付されることを期待したい。		
32	Ⅲ-1-(2)-③ 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a (b) c
<p><コメント></p> <p>措置変更については、児童相談所をはじめとして保護者、行政、関係機関等と緊密な打ち合わせをして不測の事態につながらぬよう図っている。退所時には事務手続きに間違いがないよう要領書面も備えている。また退所してからの子どもの状況把握や指導助言は処遇職員全員の職務と位置付けており、それぞれ担当した職員等が1年以上、年2回以上は責任を持って状況確認の連絡をしてその後の動向把握に努めており、高校以上の進学者については施設長が保証人となり、引き続きの経過の把握に努めている。18歳以前の退所については様々な諸事情が考えられるが、経過記録以外にも後になっても説明できるような記録や書面等を別途に残したり、また退所時にここにいた成長過程がわかるよう個別アルバムのような作成にも着手されること期待したい。</p>		
Ⅲ-1-(3) 子どもの満足の向上に努めている。		
33	Ⅲ-1-(3)-① 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	(a) b・c
<p><コメント></p> <p>家庭的養護のあるべき姿の実現を目標に、小舎棟単位に平穏な暮らしができるよう普段から小舎棟のリーダー職員や担当職員に子どもが何でも言えるよう心がけている。子どもの満足の向上への取り組みとして、別途に、学期が始まってしばらくした5月、10月、2月に担当職員と児童の個別面談をする「希望を引き出す応援面接」を実施している。事前に子どもに「相談カード」を配布し、たとえ面談時に相談事がなくとも雑談をして、また面談後のアンケートも実施し、少しでも潜在的な不満や不安を把握できるよう努めている。</p>		
Ⅲ-1-(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。		
34	Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a (b) c
<p><コメント></p> <p>入園時のしおりに苦情受付担当者として家庭支援専門相談員（主任）、苦情解決責任者として施設長が担当している記載があり、苦情解決第三者委員は前述の2名に加え法人理事長、校下社会福祉協議会長、校下主任児童委員の計5名が設置されているが、氏名や連絡先電話番号等の記載までには至っていない。また実際に苦情があった場合の「苦情対応記録簿」があるが、その項目には対処・対応内容や結果を記述する項目がなく、仕組みとしてはまだ不十分と言える。解決の手順や結果公表の仕方なども含め体制整備が求められる。</p>		
35	Ⅲ-1-(4)-② 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a (b) c
<p><コメント></p> <p>家庭的養護の実現を目標に、普段から小舎棟のリーダー職員や担当職員に子どもが何でも言える関係を築けるよう努めており、年下の子どもが年長の子どもに相談するなど子ども同士でも良好な関係があることもうかがえた。また施設長だけが読む子ども向けの「お話しボックス（意見箱）」を設け、表には見えない口には出せられない子どもの気持ちや状況の把握に</p>		

<p>努めているなど、相談や意見を言いたい時の方法や相手を選べる環境が形成されているが、いまだ従来から抱える問題が根絶しているとは言えず、引き続き今後も工夫や改善など地道な努力が求められているところである。</p>		
36	Ⅲ-1-(4)-③ 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a・b・c
<p><コメント> 子どもからの相談や意見があった場合は、本人の年齢や症状その相談内容によって、本人にとって最善の利益につながるよう適切な対応に努めている。また小舎棟のリーダー職員や担当職員で解決や対応ができない場合は、主任、施設長あずかりとしたり、職員会議の議題にして協議するなど組織的に対応する体制となっているが、こういった受け入れ体系を书面化して、別途に苦情受付票として子どもや保護者に提供するとともに、過去における意見や要望、提案等に対応した事例等をもとに対応手順をマニュアル化されることを期待したい。</p>		
<p>Ⅲ-1-(5) 安心・安全な養育・支援の提供のための組織的な取組が行われている。</p>		
37	Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な養育・支援の提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a・b・c
<p><コメント> 安心・安全な養育・支援の提供を目的とするリスクマネジメント体制として、施設内外すべての部屋や倉庫等に火元管理責任者を配置し、蛍光灯・電気器具・コンセント・窓ガラス等の細部にわたって安全点検及びエアコンフィルター等の清掃を点検票にもとづいて毎月実施しており、危険が生じた場合の通報や連絡手順をフォーマットにした「危機管理事態への対応」も備えている。今年度は不審者避難訓練も毎月実施している。今後は、ヒヤリハット事例や事故報告の要因分析、研修等も実施し、また外部からの侵入者への対応についても各小舎棟の特性に応じた検討をするなど、日々の実践の中で体制そのものの強化し高めていくことを期待したい。</p>		
38	Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a・b・c
<p><コメント> リスクマネジメント体制と同様に、感染症の予防策や体制を整えられることが求められる。単に普段からの手洗いや清掃奨励のみならず、危険個所の抽出、清掃手順、付着血液・分泌物・嘔吐物・排泄物の処理の仕方や消毒薬の配備、ノロウィルス・レジオネラ菌等の防止対策なども検討され、また外部訪問者に対しても玄関にうがいや消毒スプレーを講じてからの入所をお願いするなどの掲示が望まれる。</p>		
39	Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a・b・c
<p><コメント> 災害時における子どもの安全確保として、毎月、施設内外すべての部屋や倉庫等の火元管理責任者職員による安全点検と施設独自の避難訓練を実施しており、うち年2回、消防署通報訓練も実施して不測の事態の備えを図っている。非常用の食料・飲料水等は50人分を消費期限付きでリスト化管理をしているが、懐中電灯・ラジオ・常備薬等の持ち出し用の備蓄品の整備までには至っていない。また耐震対策が必要な本館は補強工事、体育館は補強工事がで</p>		

きなく新築する計画をたてているが、それぞれ諸問題を抱えずぐには着手できない状態となっている。設備等の落下防止策も望まれる。ほか、地域の防災訓練参加や周辺住民との連携など、地域における災害時の施設としての役割も検討されることを期待したい。

Ⅲ-2 養育・支援の質の確保

		第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 提供する養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		
40	Ⅲ-2-(1)-① 提供する養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が提供されている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>養育・支援について職員誰もが必ず行わなくてはならない実施方法として、理念のもとづく職員心得（最高の愛育園 8ヶ条）、生活目標、指導目標を掲げ、その実施方法については毎年養護方針にて個別に対応すべき目標を含め詳細に文書化し、養育・支援の実施時の留意点や子どものプライバシーの配慮、小舎制施設の環境に応じた指導・支援など、養育・支援全般にわたって盛り込み実践に臨んでいる。また確実に実施されているかについては毎日のミーティングや月末の職員会議、自立支援計画見直し時等にて、修正や変更、改善を協議し職員共通理解とともに当該年度の養育・支援の向上を目指している。</p>		
41	Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>「養護方針の作成」そのものを議題にした職員会議の開催はないが、施設長が毎年度末に、毎月重ねてきた職員会議での検討結果や年度中に実践した子ども達への養育・支援の成果及び現状を踏まえながら当該年度を評価し、新たなる問題点や継続を必要な課題を抽出して、次年度の養護方針に反映させ更新している。</p>		
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより養育・支援実施計画が策定されている。		
42	Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく個別的な養育・支援実施計画を適切に策定している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>自立支援計画票の様式は施設独自のもので、「本人の意向」「保護者の意向」「教育機関との協議内容」「児童相談所との協議内容」「総合的支援方針」の項目で本人及び本人をとりまく環境を把握し、施設の生活目標である「素直」「よく学ぶ子」「粘り強い子」に向けた方策と、「保護者」「地域（保育所・学校）」「総合」の項目で関係機関からの支援状況やアプローチ方法を書き込む様式で、理念や養護方針の具現化に向けた構成となっている。作成工程も、子どもの居室担任職員が自分の担当する子ども 2 名のアセスメント結果にもとづき下案を作成し、5、6、7月の職員会議で共通理解と検討・審議がなされ本策定に至っているが、目標設定には、施設が願う子どもにそうなる欲しい生活目標以外にも、子どもそれぞれの好きなことや得意なこと、やりたいこと、あるいは伸ばしてあげたいことなども（たとえば得意な教科、スポーツ、音楽、料理、裁縫など）加え、またその目標設定には、本人ががんばれば叶えられそうな具体的な数値や立場（たとえば算数 100 点、スタメンレギュラー獲得、コンクールエントリーなど）で表し、また本人にも、事情が許せば計画票そのものを（あるいは</p>		

当該目標部分または別途様式を作成して) 見せて励ますなど、子どもにとっても身近に感じられ、より子どもの意欲を引き出すような計画にされることを期待したい。		
43	Ⅲ-2-(2)-② 定期的に養育・支援実施計画の評価・見直しを行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>自立支援計画の見直しサイクルは基本1年毎となっているが、5、6、7月の職員会議で検討・審議し本策定された計画は、12、1月にも各担当職員が臨床心理士とも相談しながら見直し、その進捗状況を認識するとともに継続でよいか、あるいは修正・変更の必要性があるかを再度職員会議で協議・審議する体制となっている。</p>		
Ⅲ-2-(3) 養育・支援実施の記録が適切に行われている。		
44	Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する養育・支援実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>経過記録は、個別の「児童台帳」として子どもの暮らしぶりの進捗状況や変化等を記載しており、施設長も自身と全職員が個別面談をする7、12、3月に目を通している。また別途に、小舎棟毎に日々の「業務日誌」を記載して、毎日のミーティングや申し送り等に活用しているが、ともすれば「児童台帳」と「業務日誌」に同じ内容を書き込む二重作業が生じている。双方の書類作成の目的と必要性を改めて見直し、ともに残すべき内容、回覧すべき内容に対してどんな項目が必要かを再検討され、双方の書類に必要なもののみを記入する様式に改訂されることが望まれる。</p>		
45	Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>「児童台帳」は、事務室内にて適切に施設管理がなされ、また施設創設からのすべての台帳を保管している。個人情報保護については、公的ガイドラインとして全国児童養護施設協議会の規程に準じて取り扱われているが、当該施設としての個人情報保護と情報開示の2つの観点からの記録の保存と破棄、開示請求があった場合の対応・姿勢等を改めて検討され、施設としての規程を策定されることが望まれる。</p>		

内容評価基準 (41 項目)

※「共通評価基準評価対象Ⅲ 適切な養育・支援の実施」の付加項目

A-1 子ども本位の養育・支援

		第三者評価結果
A-1-(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮		
A①	A-1-(1)-① 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	a・b・c

<p><コメント> 日々のミーティングの中で養育の実践、内容について確認し、共有をはかり毎月末の職員会議において個々の倫理観を話し合っているが、職員、子ども、保護者との意見や共通理解は得られているとは言いがたく、協調性を高めていくことを期待する。</p>		
A②	A-1-(1)-② 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	a・b・㉔
<p><コメント> 子どもの成長や家族の情報は児童相談所から提供されている。年齢や発達状態に配慮して内容を伝えるタイミングを慎重に検討する機会を設けて、職員が共通理解をして進めることを期待する。</p>		
A-1-(2) 権利についての説明		
A③	A-1-(2)-① 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	a・b・㉔
<p><コメント> 子どもに権利について話し合う機会を設けているが、以前は、入所時に権利ノートで説明されていたが現在は廃止になっている。子どもの権利を「しおり」にしてわかりやすく作成したり、生活の中で一人ひとりが大切な存在であることを伝えていくよう期待する。</p>		
A-1-(3) 他者の尊重		
A④	A-1-(3)-① 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	㉔・b・c
<p><コメント> 小舎制になり、子どもたちがひとつの家族として人を思いやる心が芽生えている。一泊旅行や園祭で地域の人や他の施設の人と交流し、触れ合う機会が多く、そのような方たちへの感謝の気持ちが自然に出るように支援している。</p>		
A-1-(4) 被措置児童等虐待対応		
A⑤	A-1-(4)-① いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	㉔・c
<p><コメント> 独自の虐待防止マニュアルに沿って対応している。委員会を定期的で開催して子どもたちには具体的に自己評価(20項目)項目に基づいて実態を把握している。</p>		
A⑥	A-1-(4)-② 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	㉔・b・c
<p><コメント> 小舎制のユニットになって職員の定数増加を図り、子どもには「お話ボックス」の設置と職員のアンケートで事実確認をして信頼関係を深めている。施設長は個別面談を実施することで、早期発見や防止に徹底して取り組んでいる。</p>		
A⑦	A-1-(4)-③ 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	a・㉔・c

<p><コメント></p> <p>「危機管理事態への対応」を作成して児童相談所と密に連携する体制が整っている。しかし情緒の不安定、ストレスなどで「いじめ」につながっている状況があり、施設長は苦慮している。</p>		
<p>A-1-(5) 思想や信教の自由の保障</p>		
A⑧	A-1-(5)-① 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>子どもの思想や宗教について、職員は話し合いの場を特に設けていない。自由意志に任せている。</p>		
<p>A-1-(6) 子どもの意向や主体性への配慮</p>		
A⑨	A-1-(6)-① 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>受け入れ時は施設長と子どもが面談して不安の軽減を図っている。担当職員は室内を整備して受け入れを整えている、慣れるまではマンツーマンで対応している。</p>		
A⑩	A-1-(6)-② 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>育成会(児童と職員で構成)を年3回開催して、児童と職員が共に問題提起して進めている。そこで出たテーマの取り決めを各ユニットに掲示して全員に周知できる仕組みになっている。</p>		
<p>A-1-(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活</p>		
A⑪	A-1-(7)-① 日々の暮らしや、余暇の過ごし方など健全な生活のあり方について、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。	a・ b ・c
<p><コメント></p> <p>4月から小舎制になり、生活環境が大きく変化した中で子どもと職員の距離感が縮んだ。子どもの意欲を引き出す方法として、余暇の過ごし方には上・下級生の取り組みが違うところでの戸惑いに現在職員は苦慮しながら支援しているところであり、信頼関係が出来つつある中で、今後に一層期待したい。</p>		
A⑫	A-1-(7)-② 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	a ・b・c
<p><コメント></p> <p>上級生以上は小遣い帳をつけ、自分で金銭管理を行っている。職員は貯金の必要性を説いて指導しており、自ら貯金を望む子もいる。目的意識を持つように支援している。</p>		
<p>A-1-(8) 継続性とアフターケア</p>		

A⑬	A-1-(8)-① 家庭復帰にあたって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう復帰後の支援を行っている。	a・b・㉔
<p><コメント> 家庭復帰の事例がなく支援はされていない。今後のことを勘案して早急に体制作りが望まれる。</p>		
A⑭	A-1-(8)-② できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	a・b・㉔
<p><コメント> 現在は全員高校へ進学をしており、まだ就業に至っていない。一人は専門学校へ通っているので継続的に支援をしている。</p>		
A⑮	A-1-(8)-③ 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a・b・㉔
<p><コメント> 事例がない。</p>		

A-2 養育・支援の質の確保

A-2-(1) 養育・支援の基本		
A⑯	A-2-(1)-① 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	a・㉕・c
<p><コメント> 子どもたちには施設での生活上の意見をアンケート調査「お話ボックス」を設置して表出を促し、ケース検討会にかけ、共有をはかり支援の強化につとめている。また子どもたち自身が「毎日みんなが笑顔で喧嘩のない安全で楽しく暮らしたい」と打ち出している。</p>		
A⑰	A-2-(1)-② 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	a・㉕・c
<p><コメント> 心理的欲求である愛情の受け止めが職員間でばらつきが見られる。高齢児においては子どもの意思を尊重した柔軟な対応の方法として「希望を引き出す応援面接」を実施している。</p>		
A⑱	A-2-(1)-③ 子どもを信じて見守るという姿勢を大切に、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	a・㉕・c
<p><コメント> 職員は秩序を守ることを重視して指示や規則が多いが、できた子どもには○をつけ次回の目標のテーマをともに考えて進めている。子どもたちからは不満も出ているが適切に導いていく姿勢は崩していない。</p>		
A⑲	A-2-(1)-④ 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	㉖・b・c

<p><コメント> 学習ボランティア数名が下級生、上級生に分けて時間を違わせながら、週1回指導しにきて、子どもたちは積極的に参加している。また年齢にあわせた図書や遊具があり、図書室や体育館などの場所も十分に確保されている。</p>		
A⑳	A-2-(1)-⑤ 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a・㉑・c
<p><コメント> 育成会(児童会)で、安心して安全な生活を送るため、学期ごとの約束事を決めユニットごとに掲示してルールを守っている。子どもの中には職員の態度などについて不満に感じている子もいるが、社会の常識ある態度などを指導している。職員間での話し合いは常に行われている。共有して継続するよう期待したい。また、施設長便りを月1回子どもたちに配布しており、常識や規範をわかりやすく掲載して、社会的ルールの習得に取り組んでいる。</p>		
A-2-(2) 食生活		
A㉑	A-2-(2)-① 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	㉒・b・c
<p><コメント> 朝食は全員が食堂で、昼、夕食はユニットごとに家族的な団欒の中で、一日の出来事の話を楽しみながら食べている。ユニットごとに月1回は自分たちで好みの献立を作成して買い物に行き、料理して楽しんでいる。</p>		
A㉒	A-2-(2)-② 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a・㉑・c
<p><コメント> 栄養士2名が献立やカロリーをチェックして健康的な食事を提供している。病児へは粥などの提供し、アレルギーの子どもへの対応もしている。嗜好や残食調査はされておらず、アンケート調査の実施により、子供の充足感を満たす工夫などを期待したい。</p>		
A㉓	A-2-(2)-③ 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	㉒・b・c
<p><コメント> 地域の協力により、ホテルのシェフが施設へ出向きそこで作った料理を提供する。また、別のグループはマグロの解体をその場で行い、刺し身が十分に食べることができ、子どもたちは大変喜んだ。食文化に触れ、マナーも知り、食育が育まれている。</p>		
A-2-(3) 衣生活		
A㉔	A-2-(3)-① 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	㉒・b・c
<p><コメント> 子供の小遣いとは別に被服費として提供され、小学生以下は職員とともに店に行って購入している。高学年は自分の好みのものを購入して季節感に合ったものを確保している。洗濯もしてきちんとたたんでしまうところまで職員と共に行っている。</p>		

A-2-(4) 住生活		
A②⑤	A-2-(4)-① 居室等施設全体がきれいに整美されている。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>子供たちは日々居室の清掃やそれぞれの玄関などはきちんと整理され習慣になっている。整理整頓され施設全体が清潔感あふれている。月1回は清掃デイを設け、保健委員がパブリックスペースの環境整備と安全点検を実施して迅速な修繕などの対応がされている。</p>		
A②⑥	A-2-(4)-② 子ども一人ひとりの居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	a・㉒・c
<p><コメント></p> <p>ユニットの居室は子供間ではプライバシーが十分に守られている。パブリックスペースは学習用の仕切りがいくつもあり安心して勉強ができ、図書の実も図られ体制が整っているが、子ども達の利用が十分とはいえない。</p>		
A-2-(5) 健康と安全		
A②⑦	A-2-(5)-① 発達段階に応じ、身体健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	a・㉒・c
<p><コメント></p> <p>身体検査は学校で実施され、施設では手洗いうがいの励行や病気の早期発見、予防に心がけている。布団は年齢に応じて適切な大きさやシーツの交換も月1回実施することで清潔を保っている。</p>		
A②⑧	A-2-(5)-② 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a・㉒・c
<p><コメント></p> <p>嘱託医が施設に来て健康管理や健康相談に努めている。子供の体調変化（活気がない、落ち込んでいる）に職員は早期の対応をしている。</p>		
A-2-(6) 性に関する教育		
A②⑨	A-2-(6)-① 子どもの年齢・発達段階に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a・㉒・c
<p><コメント></p> <p>性教育の一環として、外部講師による「ハッピーウーマンプロジェクト」で知識を得る機会を設けている。また個別指導で年代に応じた命の大切さや上級生向けの具体的な指導にも取り組んでいる。</p>		
A-2-(7) 自己領域の確保		
A③⑩	A-2-(7)-① でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	a・㉒・c
<p><コメント></p> <p>個人ごとに収納スペースがあり自分で管理している。日用品は好みのものを、文房具やシャ</p>		

ンプーなどに至るまで自己管理している。幼児はほぼ職員が行っているのでイラストなどで解りやすい指導が望まれる。		
A ㉓	A-2-(7)-㉔ 成長の記録（アルバム等）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	a・b・㉕
<p><コメント></p> <p>最近の成長記録は個人ファイルごとに整理されているものの、以前のファイルをどのように工夫してアイデンティティの確立を図るかの検討が望まれる。</p>		
A-2-(8) 行動上の問題及び問題状況への対応		
A ㉔	A-2-(8)-㉕ 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a・㉖・c
<p><コメント></p> <p>行動上の問題に対して、施設の設備改修や職員の増員、研修を重ね強化している。児童相談所、警察、学校と綿密に連携をとり、健全育成に努力している。</p>		
A ㉕	A-2-(8)-㉖ 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a・㉖・c
<p><コメント></p> <p>マニュアルを作成して会議毎に話し合われている。情緒のコントロールができていない子供による暴力行為に職員は苦慮しているも、施設全体で協力体制をとって早目の対応をとっている。</p>		
A ㉖	A-2-(8)-㉗ 虐待を受けた子ども等、保護者等からの強引な引取りの可能性がある場合、子どもの安全が確保されるよう努めている。	a・b・㉕
<p><コメント></p> <p>施設での対応困難事例があり、早期対応の必要性を感じている。児童相談所と連携を密にしたの早期からの対応について、今後検討が望まれる。</p>		
A-2-(9) 心理的ケア		
A ㉗	A-2-(9)-㉘ 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	㉘・b・c
<p><コメント></p> <p>臨床心理士を今年から非常勤として配属し、専門的な設備も整備し、心理支援を充実して施設全体で取り組んでいる。</p>		
A-2-(10) 学習・進学支援、進路支援等		
A ㉘	A-2-(10)-㉙ 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a・㉖・c
<p><コメント></p> <p>日々の学校間の連絡帳を子供と確認して支援している。施設長や担当職員が学校の授業を参観し、学力や態度を把握して、一人ひとりのニーズに沿った支援をしている。</p>		
A ㉙	A-2-(10)-㉚ 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a・㉖・c
<p><コメント></p>		

今までほぼ全員が高校に進学している。進路決定には学校と情報を交換して、将来の目標を聞き、本人の意思も取り入れて決定している。

A⑳	A-2-(10)-③ 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	㉑・b・c
<p><コメント> 高校生でアルバイトを経験している子には、帰園時に夕食を温め直し、子どもに寄り添い、社会のルールや精神面の支えを重点に話し合いを通して支援している。</p>		
A-2-(11) 施設と家族との信頼関係づくり		
A㉑	A-2-(11)-① 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a・㉒・c
<p><コメント> 家庭支援専門員が児童相談所と連絡を取り、情報の共有を図り関係調整しながら、外泊を促して家族交流を図るようにしている。</p>		
A-2-(12) 親子関係の再構築支援		
A㉒	A-2-(12)-① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a・b・㉓
<p><コメント> 自立支援計画に再構築に取り組んだ方針が示されていない。家族との交流の宿泊施設が完備されているので、今後は具体的な取り組みに向かって親子生活訓練目的で施設泊などを試みることが望ましい。</p>		
A-2-(13) スーパービジョン体制		
A㉓	A-2-(13)-① スーパービジョンの体制を確立し、施設の組織力の向上に取り組んでいる。	a・㉔・c
<p><コメント> スーパーバイザー(基幹的職員)を来年度は3名に増員して組織体制強化に加え、質の向上を図る予定にしている。自立支援計画の充実を図り、課題を明確に取り組む姿勢で望むことを課題に挙げている。</p>		